



NEWS 5 1980. 2

弾の会事務局  
東京都文京区本郷  
2-15-18  
電話03(816)6902  
五月社内

いよいよ80年代を迎えました。イデオロギーの終焉が叫ばれて久しくなりますが、表面的には〈知〉が復権し、〈知〉的な生活や生き方などが出版界の中でももてはやされ、氾濫しています。

しかし私達はそのような枯れた言葉の中に何を求めはしなかったし、もはやそのような時代のあぶくのような〈知〉的文化が現実の中で死語と化すであろうことを予見しています。そして80年代という時代も、いまだ不可視の濃霧に包まれたまま、擬制の〈知〉のみが膨張しつづける様相を示していますが、私達はその擬制の〈知〉の洪水にのみ込まれることなく、時代の冥暗の底の底まで見すえる眼を持って航海を続

けていく覚悟です。

がしかし、窒息的状况に拮抗し、耐えぬく出版営為を貫徹することが、言葉で表現するほど容易でないことはいうまでもありません。まず第一に私達の自覚した出版の〈意志〉を強固に持てば持つほど、生の現実に対して自己をオリエンテートすることを拒否することになり、そこから経済的な意味でのシッベ返しが、私達にもろにはね返ってきます。そのような緊張関係の中で私達は内職に精を出したり、生活を削ったりしながら出版の〈意志〉を防衛し、そして好むと好まざるとにかかわらず零細であることを現実から強いられてきています。

でも私達は零細であるということ逆を逆に現実を逆攻する武器に転化しています。何故なら零細であることによって1000人の購読者しかいないであろう企画でも私達の想念が現実化するのならば出版できるという強みを持っています。中堅の出版社が2000～2500売れねば採算の取れない企画が、零細出版では1000～1500売れば何とかかなるという現実です。ようするに中堅出版社で出せない企画を私達は出版し